

**委託事業実施内容報告書**  
**平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業**  
**【地域日本語教育実践プログラム(A)】**

**内容報告書**

団体名: 社会福祉法人さぼうとにじゅういち

**1. 事業の概要**

事業名称	外国人住民・日本人住民 共育ち日本語教室展開事業 ～安全・安心を基盤に、よりよい「定住」に向かって！～
事業の目的	<p>本事業の目的は、日本に定住する覚悟を決めた外国人住民(とくに難民)が、言葉の学びを通して生活基盤を強固なものとし、個々の「成長」を目ざして日々過ごせるようになること、より多くの日本人住民・先輩外国人住民が、彼らの良き「伴走者」として成長すること、結果として、関わる全ての者たちが多文化共生社会日本の一員として共に手を携え前進していくことである。</p> <p>当団体は、難民を主な支援対象とし、昭和54年から活動を続けている。「定住」を目指す外国人住民が抱える問題や悩み、希望、期待、そして成長を、30年以上の歳月をかけて間近で見てきた。「難民支援」という活動の性質上、地域に深く根差した活動展開はできないが、団体がこれまで得た知見、先輩外国人住民の経験、文化庁事業の成果を反映させ、「日本語教育」「人材育成」の具体的なモデルの提示、「現場で使える教材」の提供を進め、地域日本語教育に貢献したいと願っている。</p>
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	<p>当団体の主たる支援対象者である「難民」の場合、国での迫害を逃れ、他国に保護を求めた方々であり、まずは「在留」そのものが日本に暮らす目的である。彼らの場合、本国政府からの保護や支援は期待できない。とくに本国からの、異なるステータスの方々と安易に接触することはできず、そのため、地域との関わりがもろくにくい。そうした事情から、以下は「地域の実情」といふより「難民」もしくはそれに類する方々についての実情・課題となる。</p> <p>難民の日本語学習の目的は二極化している。最低限の生活上の行為を何とか達成できるようになることを目指す「導入期の日本語学習」と、「ステップアップを図るための日本語学習」である。</p> <p>これまで、当団体の学習支援室で日本語を学ぶ難民は、ほとんどがミャンマー(ビルマ)出身者であった。彼らの多くは、同国人(同民族)コミュニティに属し、そのコミュニティが生活の拠り所であり、そこそこ活発な情報交換も行われている。日本での在年数も長期化し、「仕事」「子育て」「健康」についての悩みや不安を抱えながら、今日明日の生活だけでなく、もう一歩先を見据えて、安定と成長のためにステップアップを図ろうとしている。そして改めて「日本語を学ばなければならない」という想いを強くしている。</p> <p>その一方で、ここ数年、当団体にも、アフガニスタン、シリア、エジプト、コンゴ、エチオピア等、ミャンマー以外の地域出身の難民からの、とくに日本語学習に関する相談が増加している。「全く英語が分からない」「外国語の学習の経験がない」「日本の生活習慣や文化の理解に困難を抱える」方々にとって、日本語の習得は容易なものではない。その必要性は実感しながらも、日本語学習の継続が非常に難しい状況にある。彼らの多くは属するコミュニティがなかったり、あったとしてもコミュニティ自体が脆弱で支えが必要な状態であったりする。</p> <p>この二極化した日本語学習のニーズや求めに対応し、具体的な方策を創出していくことが喫緊の課題である。</p>
事業内容の概要	<p><b>【1 日本語教育】</b>  「難民のための参加型日本語教室」として、以下の2つの講座を実施する。  ①「体験を通して学ぶ導入期日本語講座」  日本語教育の経験豊富な指導者のもとで、ボランティアが学習者と共に学びを深めることのできる日本語教室を実施する。体験を重視した参加型の学習を通じて、学習者が日本人とのコミュニケーションをおそれず、自ら考え、行動できるようになることが教室の目標である。  ○今年度事業は「体験を通して学ぶ日本語講座」のモデル提示をすべく、「シラバス案」の作成に注力した。  ②「生活力向上のためのワークショップ&amp;座談会」  平成25年度に開始した参加型講座(ワークショップ)は、平成28年度より出張講座を行うまでに内容が充実してきた。来日から間もない外国人住民も、生活上必要な知識や情報を早い段階で獲得し、それにより日本社会や日本語への関心を深めていくことが講座の目的である。平成29年度は、「生活者としての外国人」である彼らにとって大きな関心事である「子どもの教育」に関連するテーマにて3回連続の講座を実施した。  ○「N1合格者を中心とする外国人住民には準備段階から関わってもらい、彼ら一人一人がコミュニティのキーパーソンとして成長すること」、「関わる行政や専門家たちが難民をはじめとする在住外国人に対して理解を深めること」が副次的効果としてあげられる。  ○出張講座をより多くの地域で実施すべく、資料の見直しにも力を入れた。</p> <p><b>【2 人材育成】</b>  「地域日本語教室ボランティアのためのパワーアップ講座」として、3つの異なるタイプの講座を実施した。当主催の日本語教室に限らず、広く地域日本語教室の現場で、外国人住民のニーズや求めに応じた活動ができるボランティアの育成を目的として実施した。  ①「理解を深める講座」(「難民への日本語教育を俯瞰する」を実施)  ②日本語学習支援やボランティアの経験の少ない方々が、基本的な活動の姿勢などを学ぶための「活動基礎講座」  ③日本語学習支援の実践力を磨くための「ブラッシュアップ講座」  「活動基礎講座」については、初めての試みであったが、参加者のみならず、講座担当講師からも高い評価を得た。次年度以降も定期開催を続け、内容の充実を図り、地域日本語教育の人材育成に尽力したい。</p> <p><b>【3 教材作成】</b>  ①「体験型日本語講座・シラバス案」をまとめ、講座の全体像をわかりやすく提示した。「同講座実例集」(追加作成)、「同講座学習者記録用シート」を進めた。  ②「ワークショップ(座談会)対応の、「生活者としての外国人」のための初中級読解教材」の試用版作成に着手した。  「生活者としての外国人」にとって関心の高いテーマで読み教材を作成した。座談会に連動できる内容とした。「読むこと」への関心や自信を深め、初中級レベルの日本語学習に関心をもてるようになることが期待される。</p>
事業の実施期間	平成29年5月～平成30年3月(11か月間)

## 2. 事業の実施体制

### (1) 運営委員会

#### 【運営委員】

1	高橋 敬子	(社福) さぼうと21
2	岩本 彩	東京済生会中央病院
3	鶴川 晃	大正大学人間学部 人間環境学科
4	奥原 淳子	早稲田大学日本語教育研究センター他
5	久保田 雅文	(特非) 難民を助ける会 (AAR Japan)
6	田中 美穂子	早稲田大学日本語教育研究センター他
7	長崎 清美	日本語教師 (フリーランス)
8	長島 みどり	(社福) さぼうと21
9	矢崎 理恵	(一財) 日本国際協力センター他 (社福) さぼうと21
10	LIA CING LAM MANG	(公財) アジア福祉教育財団・難民事業本部



#### 【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成29年5月27日 (土) 19:30~21:30	2時間	認定NPO法人難民を助ける会会議スペース	高橋敬子・岩本彩・鶴川晃・奥原淳子・久保田雅文・田中美穂子・長崎清美・LIA CING LAM MANG・矢崎理恵・長島みどり	1. 運営委員紹介 2. 各取り組みの方針、実施時期、内容等検討 ⇒取り組みごとの担当者を決定し、小委員会を中心に進めていくことを決定 3. 作成教材の方向性を検討 ⇒昨年度の文化庁事業にて作成した動画のシリーズ化を図るか、或いは防災に関する教材を作成するか、方向性について検討
2	平成29年12月17日 (日) 17:30~19:00	1.5時間	認定NPO法人難民を助ける会会議スペース	高橋敬子・奥原淳子・久保田雅文・田中美穂子・長崎清美・LIA CING LAM MANG・矢崎理恵	1. 「理解を深める講座」見学の運営委員を中心に振り返り 2. 実施済み事業、実施中事業の報告と意見交換
3	平成30年3月17日(土) 18:00~19:30	1.5時間	認定NPO法人難民を助ける会会議スペース	岩本彩・奥原淳子・長島みどり・田中美穂子・LIA CING LAM MANG・矢崎理恵	1. 各取り組みの報告と意見交換 (日本語教室、ワークショップ、ブラッシュアップ講座、活動基礎講座、教材作成) 2. 次年度以降の事業実施について

### (2) 事業の実施体制

<p>運営委員会</p> <p>運営委員長: 高橋敬子(全体総括・予算執行者) 社会福祉法人さぼうと21</p> <p>↓</p> <p>全体コーディネーター: 矢崎理恵 → → → → → 事務局 長島みどり(主に広報、事務、会計担当) ⇒ 関連団体 ( (3) 連携体制にて記載)</p> <p>↓</p> <p>※各取り組みについては、小委員会を設けて検討する。(★コーディネーター ☆副コーディネーター)</p> <p>①「日本語教室検討小委員会」 ★矢崎理恵・☆田中美穂子・ディラン恵子(指導者)=計3名 コーディネーターは他団体との交渉や内部調整、事務局と協力しての広報活動を担当。また、教材作成検討委員会との調整を図る。 正副コーディネーターは指導者を含む小委員会メンバーと共に、指導方法や内容、評価のための方法について検討。また、毎回報告書の確認を行い、必要に応じて教室の見学を行いながら、指導者、ボランティアと話し合いをし、内容の充実努力した。</p> <p>②「ワークショップ検討小委員会」 ★長島みどり・高橋敬子・矢崎理恵・岩本彩=計4名 コーディネーターは全体コーディネーターと協力して他団体との交渉や講座内容について検討するためのヒアリング等を行い、他の委員と共に講座内容について検討した。</p> <p>③「人材育成検討小委員会」 ★奥原淳子・☆長崎清美・田中美穂子・矢崎理恵・岩田一成・新崎祥隆=計4名 コーディネーターは講座内容について検討するための小委員会を開催し、全体コーディネーターと協力して講師や会場の手配調整を担当。 正副コーディネーターは講座内容についての具体案の提示、評価のためのアンケートの実施、受講者フォローを行った。 他の委員は各回の内容について適宜助言を行い、広報に関しては、事務局が中心となって行う。</p> <p>④「教材作成検討小委員会」 ★矢崎理恵・☆田中美穂子・LIA CING LAM MANG=計3名 正副コーディネーターが中心となり、2種類の教材の作成にもあたった。</p>
--

### (3) 地域における連携体制

<p>・「日本語教室の開催」「ワークショップの実施」にあたり、以下の団体とは「広報」「受講者募集」「事業内容の共有」等により協力体制を構築した。また、そのネットワークにより、当団体が作成した「教材」の外国人住民への周知が進んでいる。</p> <p>■難民支援関連団体: (特非) なんみんフォーラムFRJ(当団体もメンバー団体)をはじめとする難民支援団体、(公財) アジア福祉教育財団難民事業本部(特に条約難民とその家族について)</p> <p>■地域の日本語教育関係団体: 東京日本語ボランティアネットワーク(TNVN)、埼玉日本語ネットワーク</p> <p>■行政、地域の国際交流関連団体: 品川区(国際課)、東京都国際交流委員会、東京都生活文化局、東京ボランティア・市民活動センター、(一財)自治体国際化協会</p> <p>・毎年定期的に「日本語教室ボランティアのための講座」を実施したことにより、多くの地域日本語教室との情報共有が進んでいる。</p> <p>・「理解を深める講座」の実施により、難民支援団体同士の日本語教育についての情報共有を大きく進めることができた。</p> <p>・文化庁事業を受託して以来、外部団体との連携・協力のネットワークが広がり、より広範囲からのニーズや要望が寄せられるようになっている。新たな事業を他団体との連携の中で実施する可能性が広がっている。</p>
---

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称: 活動の名称: 体験を通して学ぶ導入期日本語講座(春夏講座)】										
目的・目標	・生活者としての外国人である受講者(難民)が日常生活において最低限必要とされる生活上の行為を日本語で行える(または、行えるという自信がもてる)ようになること。あわせて、日本社会の一員としての権利や義務を理解した上で、各人が日本社会の一員であるという意識を高め、日々の生活の豊かさを求める姿勢がもてるようになること ・ボランティアで参加する日本人住民が、教室での活動を通じて、外国人住民への理解を深め、コミュニケーション力を向上させ、教室での学びを日々の生活に生かして、外国人住民と共に暮らす日常を楽しめるようになること									
対象	東京近郊に在住する難民で、日本語でのコミュニケーションがほとんどできない者									
取組の内容	以下の体験を達成することを目標に掲げ、その達成の過程で日本語の表現を学び、日本語でのやりとりを実際に経験していく。 「自己紹介」「防災センター見学」「トライ日本の味」「街歩き」「おしゃべりタイム」など									
実施期間	平成29年5月13日～平成29年10月7日 ※10月14日、21日ヒアリング、日本語能力判定等				曜日・時間帯		原則として 土曜日(13:00～16:10)			
開催回数	全 60時間 (1回 3時間 × 20回)				開催場所		にほんごタウン、貸会議室ゴブリン			
参加者	総数 9人+ボランティア (日本語学習者 7人、指導者 2人 ) ※必要に応じて「指導補助者」配置				使用した教材・リソース		・『はじめの500語』(当会作成教材) ・『あいうえおのれんしゅう』『アイウエオのれんしゅう』(当会作成教材) ・『Write Now! Kanji for Beginners』(スリーエーネットワーク) ・『体験型講座実例集』(当会作成) ・指導者作成教材			
出身・国別内訳 (人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ミャンマー(2人)、ガーナ(1人)、コンゴ(1人)、リベリア(1人)、シリア(1人)、パレスチナ(1人)										
カリキュラム案活用	「カリキュラム案で扱う生活上の行為」をもとに全体の授業を構成する。講座内容検討にあたり、「ガイドブック」や「教材例集」を参考にしている。「日本語能力評価について」「指導力評価について」を日本語力判定の際に参考とした。									
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名		
1	平成29年5月13日 (土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	4	VII 人と関わる 14他者との関係を円滑にする(31)人と付き合う	①各参加者の識字レベルに合わせた文字学習 ②以下の目標項目 ・自己紹介ができる ・「これは何ですか?」と質問できる ・数字「1～12」が言える ・電話番号が言える、聞き取れる	ディラン恵子	※ボランティア 1人		
2	平成29年5月20日 (土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	4	VII 人と関わる 14他者との関係を円滑にする(31)人と付き合う	①各参加者の識字レベルに合わせた文字学習 ②以下の目標項目 ・1～12月が言える ・月日がわかる ・家族の呼び方がわかる ・誕生日が言える ・来日年月日、誕生日、家族についての情報を加えて自己紹介ができる ・隣の人に簡単なあいさつができる	ディラン恵子	※ボランティア 4人		
3	平成29年5月27日 (土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	3	VII 人と関わる 14他者との関係を円滑にする(31)人と付き合う	①各参加者の識字レベルに合わせた文字学習 ②以下の目標項目 ・自分の国の紹介ができる ・簡単な形容詞、動詞を覚える	ディラン恵子	※ボランティア 2人		
4	平成29年6月3日 (土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	2	I 健康・安全に暮らす 01健康を保つ (01)医療機関で治療を受ける (03)健康に気をつける	①各参加者の識字レベルに合わせた文字学習 ②以下の目標項目 ・文字を覚える ・体の部位の名前がわかる ・症状の言い方がわかる ・欠席の電話がかげられる ・熱中症の予防について知る	ディラン恵子	※ボランティア 2人		
5	平成29年6月10日 (土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	4	I 健康・安全に暮らす 01健康を保つ (01)医療機関で治療を受ける (03)健康に気をつける	①各参加者の識字レベルに合わせた文字学習 ②以下の目標項目 ・病院の流れがわかる ・医師の指示のことがわかる ・検査のことがわかる ・病院での会話ができる	ディラン恵子	※ボランティア 4人		
6	平成29年6月17日 (土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	3	I 健康・安全に暮らす 01健康を保つ (02)薬を利用する	①各参加者の識字レベルに合わせた文字学習 ②以下の目標項目 ・薬の種類と使用法がわかる ・薬袋の見方がわかる ・薬局で薬を買う時の簡単な質問ができる	ディラン恵子	※ボランティア 2人		
7	平成29年6月24日 (土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	4	I 健康・安全に暮らす 01健康を保つ (03)健康に気をつける III 消費活動を行う 05物品購入・サービスを利用する	①各参加者の識字レベルに合わせた文字学習 ②以下の目標項目 ・体によくて安い食材を知る ・スーパーで体にいい食材が買える ・簡単な食べ方を覚える ・自国の体にいい食べ物を紹介することができる	ディラン恵子	※ボランティア 2人		
8	平成29年7月8日 (土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	2	I 健康・安全に暮らす 02安全を守る (05)災害に備え、対応する(地震)	①各参加者の識字レベルに合わせた文字学習 ②以下の目標項目 ・災害のことが聞いて理解できる ・防災グッズを知る ・行き方を尋ねることができる ・文法『～ないでください』の意味がわかって使える	ディラン恵子	※ボランティア 2人		
9	平成29年7月15日 (土) 13:00-16:10	3	池袋防災館	1	I 健康・安全に暮らす 02安全を守る (05)災害に備え、対応する(地震・火事) IV 目的地に移動する 07公共交通機関を利用する(10)電車、バス、飛行機、船等を利	<池袋防災館防災体験ツアー参加> ①各参加者の識字レベルに合わせた文字学習 ②以下の目標項目 ・目的地へ決められた時間に行くことができる ・災害時の体験をする	ディラン恵子	LASHI ROI SAN 篠原奈央 ※ボランティア 2人		

10	平成29年7月22日 (土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	3	VIII 社会の一員となる 15 地域・社会のルール・マナーを守る 16 地域社会に参加する	①各参加者の識字レベルに合わせた文字学 習 ②以下の目標項目 ・駅の中と付近にある物の名前がわかる ・駅のアナウンスの中のことばが少しでも聞き 取れる ・駅の中で見かける漢字の読み方とその意味 が尋ねられる ・簡単な擬態語、擬声語が使える	ディラン恵子	※ボランティア 2人
11	平成29年7月29日 (土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	3	IX 自身を豊かにする 20 余暇を楽しむ	①各参加者の識字レベルに合わせた文字学 習 ②以下の目標項目 ・日本の文化を体験する(書道、ゆかた) ・日本語を使ってゲームを体験する(形容詞ク ロソフトパズル、ナンプレ) ・日常生活に役に立つ表現が言える	ディラン恵子	※ボランティア 3人
12	平成29年8月5日 (土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	2	IX 自身を豊かにする 20 余暇を楽しむ	<トライ日本の味 第1週> ①各参加者の識字レベルに合わせた文字学 習 ②以下の目標項目 ・次週の料理作りに必要な語彙を理解する ・目標料理のレシピを知り、作ることができる ・食材選びと予算について話し合っ て決めることができる ・必要な食材をスーパーで購 入することができる	田中美穂子	植木千津+ ボランティア1人
13	平成29年8月12日 (土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	3	IX 自身を豊かにする 20 余暇を楽しむ VII 人と関わる 14他者との 関係を円滑にする (31)人と付き合う	<トライ日本の味 第2週> ①各参加者の識字レベルに合わせた文字学 習 ②以下の目標項目 ・味噌汁と手巻き寿司の作り方がわかる ・日本語でおしゃべりをしながら、食事を 楽しむことができる ・「マイ手巻き寿司」のレシピが書ける	ディラン恵子	植木千津+ ボランティア1人
14	平成29年8月19日 (土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	3	VII 人とかかわる 14 他者との関係を円滑に する(31)人と付き合う X情報を収集・発信す る 21通信する(45) 郵 便・宅配便を利用する	①各参加者の識字レベルに合わせた文字学 習 ②以下の目標項目 ・残暑見舞いのはがきを書いてみる(自分の住 所が書ける) ・スーパーのレジのことばがわかる ・来週の街歩きの写真のしかたがわかる ・気持ちのことばが使える	ディラン恵子	※ボランティア 1人
15	平成29年8月26日 (土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	4	VII 人とかかわる 14 他者との関係を円滑に する(31)人と付き合 う III消費活動を行う 05物品購入・サービ スを利用する(08)物 品購入・サービスを	<街歩き> ①各参加者の識字レベルに合わせた文字学 習 ②以下の目標項目 ・デパート、駅、交番等で行き方や場所を尋 ねることができる ・ファーストフード店で注文することができる ・自分の国について伝えたいことが書ける	ディラン恵子	※ボランティア 1人
16	平成29年9月2日 (土) 13:00-16:10	3	にほんごタウン	5	VII 人とかかわる 14他 者との関係を円滑にす る(31)人と付き合う VIII社会の一員となる 15 地域・社会のルー ル・マナーを守る	<おしゃべりタイム準備日> ①各参加者の識字レベルに合わせた文字学 習 ②以下の目標項目 ・次週の「おしゃべりタイム」プロジェクトの スピーチが書ける ・「おしゃべりタイム」のスピーチができる ・「おしゃべりタイム」を企画する(司会進行な ど) ・ごみリサイクルのやり方がわかる	ディラン恵子	※ボランティア 1人
17	平成29年9月9日 (土) 13:00-16:10	3	にほんごタ ウン、 さほうと21	6	VII 人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る(31)人と付き合う	<おしゃべりタイム> ①各参加者の識字レベルに合わせた文字学 習 ②以下の目標項目 ・「おしゃべりタイム」で自国についての簡単 なスピーチができる ・パートナーの日本人と日本語でのおしゃべ りを楽しむことができる	ディラン恵子	※ボランティア 2人
18	平成29年9月23日 (土) 13:00-16:10	3	貸会議室ゴ 布林	4	VII 人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る(31)人と付き合う	①各参加者の識字レベルに合わせた文字学 習 ②以下の目標項目 ・修了スピーチが書ける ・修了式について話し合う ・近所の人との簡単な一言会話ができる	ディラン恵子	※ボランティア 2人
19	平成29年9月30日 (土) 13:00-16:10	3	貸会議室ゴ 布林	4	VII 人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る(31)人と付き合う VIII社会の一員となる 15 地域・社会のルー ル・マナーを守る	①各参加者の識字レベルに合わせた文字学 習 ②以下の目標項目 ・修了式のスピーチを完成する ・スピーチの練習をする ・どんな修了式にするか相談して決める	ディラン恵子	※ボランティア 2人
20	平成29年10月7日 (土) 13:00-16:10	3	貸会議室ゴ 布林	4	VII 人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る(31)人と付き合う	<修了式> ①各参加者の識字レベルに合わせた文字学 習 ②以下の目標項目 ・修了式に参加する ・パーティで楽しく話したり、ゲームをし たりできる	ディラン恵子	※ボランティア 1人
★	平成29年10月14日 (土) 10:30-16:30	3	認定NPO法人 難民を助ける 会議スぺ ース	6	-	受講者へのヒアリング	-	●ヒアリング担当 (コーディネーター): 矢崎理恵 田中美穂子 ●ヒアリング通 訳: ラガド アドリー 柴田都志子

日本語教育の実施【活動の名称: 体験を通して学ぶ導入期日本語講座(秋冬講座)】

目的・目標	・生活者としての外国人である受講者(難民)が日常生活において最低限必要とされる生活上の行為を日本語で行える(または、行えるという自信がもてる)ようになること。あわせて、日本社会の一員としての権利や義務を理解した上で、各人が日本社会の一員であるという意識を高め、日々の生活の豊かさを求める姿勢がもてるようになること ・ボランティアで参加する日本人住民が、教室での活動を通じて、外国人住民への理解を深め、コミュニケーション力を向上させ、教室での学びを日々の生活に生かして、外国人住民と共に暮らす日常を楽しめるようになること								
対象	東京近郊に在住する難民で、日本語でのコミュニケーションがほとんどできない者								
取組の内容	以下の体験を達成することを目標に掲げ、その達成の過程で日本語の表現を学び、日本語でのやりとりを実際に経験していく。 「自己紹介」「防災センター見学」「トライ日本の味」「街歩き」「おしゃべりタイム」など								
実施期間	平成29年10月21日～平成30年3月10日 ※3月10日、17日ヒアリング、日本語能力判定等				曜日・時間帯		原則として 土曜日(13:00～16:10)		
開催回数	全 60時間 (1回 3時間 × 20回)				開催場所		にほんごタウン		
参加者	総数 10人+ボランティア (日本語学習者 9人、指導者 1人) ※必要に応じて「指導補助者」配置				使用した教材・リソース		・『はじめの500語』(当会作成教材) ・『あいうえおのれんしゅう』『アイウエオのれんしゅう』(当会作成教材) ・『体験型講座実例集』(当会作成) ・指導者作成教材 ・『かんじだいすき1～6』(AJALT)		
出身・国内別訳(人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	4	1	0	0	0	0	0	0	0
ミャンマー(1人)、コンゴ(1人)、リベリア(2人)									
カリキュラム案活用	「カリキュラム案で扱う生活上の行為」をもとに全体の授業を構成する。講座内容検討にあたり、「ガイドブック」や「教材例集」を参考にしている。「日本語能力評価について」「指導力評価について」を日本語力判定の際に参考とした。								

日本語教育の実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成29年10月21日 (土) 13:00～16:10	3	にほんごタウン	4	Ⅶ人とかかわる 14 他者との関係を円滑にする (31) 人と付き合う	①各参加者の識字レベルに合わせた文字学習 ②以下の目標項目 ・自己紹介ができる ・「これは何ですか?」と質問できる ・数字1～12が言える ・電話番号が言える、聞き取れる	ディラン恵子	※ボランティア 1人
2	平成29年10月28日 (土) 13:00～16:10	3	にほんごタウン	5	Ⅶ人とかかわる 14 他者との関係を円滑にする (31) 人と付き合う	①各参加者の識字レベルに合わせた文字学習 ②以下の目標項目 ・1～12月が言える ・1月がわかる ・家族の呼び方がわかる ・来日年月日、誕生日が言える ・来日年月日、誕生日、家族についての情報を加えて自己紹介ができる	ディラン恵子	※ボランティア 2人
3	平成29年11月4日 (土) 13:00～16:10	3	にほんごタウン	5	Ⅶ人とかかわる 14 他者との関係を円滑にする (31) 人と付き合う	①各参加者の識字レベルに合わせた文字学習 ②以下の目標項目 ・自分の国の紹介ができる ・簡単な形容詞、動詞を覚える	ディラン恵子	※ボランティア 1人
4	平成29年11月11日 (土) 13:00～16:10	3	にほんごタウン	5	Ⅰ 健康・安全に暮らす 01健康を保つ (01) 医療機関で治療を受ける (03)健康に気をつける	①各参加者の識字レベルに合わせた文字学習 ②以下の目標項目 ・体の部位の名前がわかる ・症状の言い方がわかる ・欠席の電話がかけられる	ディラン恵子	(三宅陽子)+ ボランティア1人
5	平成29年11月18日 (土) 13:00～16:10	3	にほんごタウン	5	Ⅰ 健康・安全に暮らす 01健康を保つ (01) 医療機関で治療を受ける (03)健康に気をつける	①各参加者の識字レベルに合わせた文字学習 ②以下の目標項目 ・医者の指示のことがわかる ・検査のことがわかる ・病院での会話ができる	ディラン恵子	ボランティア 2人
6	平成29年11月25日 (土) 13:00～16:10	3	にほんごタウン	3	Ⅰ 健康・安全に暮らす 01健康を保つ (01) 医療機関で治療を受ける (03)健康に気をつける	①各参加者の識字レベルに合わせた文字学習 ②以下の目標項目 ・薬の種類と使用法がわかる ・薬袋の見方がわかる ・薬局で薬を買う時の簡単な質問ができる	ディラン恵子	※ボランティア 2人
7	平成29年12月2日 (土) 13:00～16:10	3	にほんごタウン	6	Ⅰ 健康・安全に暮らす 02安全を守る (05) 災害に備え、対応する (地震・火事)	①各参加者の識字レベルに合わせた文字学習 ②以下の目標項目 ・災害のことが聞いて理解できる ・防災グッズを知る ・行き方を尋ねることができる ・文法『～ないでください』の意味がわかって使える	ディラン恵子	※ボランティア 2人
8	平成29年12月9日 (土) 13:00～16:10	3	池袋防災館	7	Ⅰ 健康・安全に暮らす 02安全を守る (05) 災害に備え、対応する (地震・火事)	<池袋防災館防災体験ツアー参加> ①各参加者の識字レベルに合わせた文字学習 ②以下の目標項目 ・目的地へ決められた時間に行くことができる ・災害時の体験をする	ディラン恵子	LIA CING LAM MANG 篠原奈央 ※ボランティア 4人
9	平成29年12月16日 (土) 13:00～16:10	3	にほんごタウン	5	ⅧIII 社会の一員となる 15 地域・社会のルール・マナーを守る 16 地域社会に参加する	①各参加者の識字レベルに合わせた文字学習 ②以下の目標項目 ・駅の中と付近にある物の名前がわかる ・駅のアナウンスの中のことばが少しでも聞き取れる ・駅の中で見かける漢字の読み方とその意味が尋ねられる ・気持ちを表すことばを使って感情・感想を表現できる	ディラン恵子	※ボランティア 2人

10	平成29年12月23日 (土) 13:00~16:10	3	にほんごタウン	6	IX 自身を豊かにする 20 余暇を楽しむ	①各参加者の識字レベルに合わせた文字学 習 ②以下の目標項目 ・お正月の文章を読み設問に答えながら文化 を理解する ・年賀状を書いて日本文化を味わう ・日本語を使ってゲームを体験する(まちがいさ がし、ナンプレ)	ディラン恵子	※ボランティア 2人
11	平成30年1月6日(土) 13:00~16:10	3	にほんごタウン	4	IX 自身を豊かにする 20 余暇を楽しむ	①各参加者の識字レベルに合わせた文字学 習 ②以下の目標項目 ・お正月の過ごし方について話す ・日本の文化を体験する(書道・茶道) ・ごみリサイクルについて理解する	ディラン恵子	※ボランティア 2人
12	平成30年1月13日 (土) 13:00~16:10	3	にほんごタウン	5	IX 自身を豊かにする 20 余暇を楽しむ	<トライ日本の味 第1週> ①各参加者の識字レベルに合わせた文字学 習 ②以下の目標項目 ・次週の料理作りに必要な語彙を理解する ・目標料理のレシピを知り、作るができる ・食材選びと予算について話し合っ決めて ることができる ・必要な食材をスーパーで購入することが できる	ディラン恵子	植木千津+ ボランティア2人
13	平成30年1月20日 (土) 13:00~16:10	3	にほんごタウン	5	IX 自身を豊かにする 20 余暇を楽しむ	<トライ日本の味 第2週> ①各参加者の識字レベルに合わせた文字学 習 ②以下の目標項目 ・味噌汁と手巻き寿司の作り方がわかる ・日本語でおしゃべりをしながら、食事を楽し むことができる	ディラン恵子	植木千津+ ボランティア1人
14	平成30年1月27日 (土) 13:00~16:10	3	にほんごタウン	7	VII人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	①各参加者の識字レベルに合わせた文字学 習 ②以下の目標項目 ・食器名のひらがな、カタカナディクテーシ ョン ・来週の街歩きのための質問のしかたがわか る ・気持ちのこぼが使える	ディラン恵子	※ボランティア 2人
15	平成30年2月3日(土) 13:00~16:10	3	にほんごタウン	6	VII人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	<街歩き> ①各参加者の識字レベルに合わせた文字学 習 ②以下の目標項目 ・デパート、駅、交番等で売り場や行き方を 質問することができる ・ファーストフード店で注文することができる	ディラン恵子	※ボランティア 2人
16	平成30年2月10日 (土) 13:00~16:10	3	にほんごタウン	6	VII人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	<おしゃべりタイム準備日> ①各参加者の識字レベルに合わせた文字学 習 ②以下の目標項目 ・次週の「おしゃべりタイム」プロジェクトの スピーチが書ける ・「おしゃべりタイム」のスピーチができる ・「おしゃべりタイム」を企画する(司会進行な ど) ・ごみリサイクルのやり方がわかる	ディラン恵子	田中美穂子+ ボランティア2人
17	平成30年2月17日 (土) 13:00~16:10	3	にほんごタウン 、さほうと21	6	VII人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	<おしゃべりタイム> ①各参加者の識字レベルに合わせた文字学 習 ②以下の目標項目 ・「おしゃべりタイム」で自国についての簡単 なスピーチができる ・パートナーの日本人と日本語でのおしゃべ りを楽しむことができる	ディラン恵子	田中美穂子+ ボランティア2人
18	平成30年2月24日 (土) 13:00~16:10	3	にほんごタウン	5	VII人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	①各参加者の識字レベルに合わせた文字学 習 ②以下の目標項目 ・修了スピーチが書ける ・修了式について話し合う ・スーパーで見るこぼを理解できる	ディラン恵子	※ボランティア 1人
19	平成30年3月3日(土) 13:00~16:10	3	にほんごタウン	5	VII人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	①各参加者の識字レベルに合わせた文字学 習 ②以下の目標項目 ・修了式のスピーチを完成する ・スピーチの練習をする ・どんな修了式にするか相談して決める ・ひなまつりについて知る	ディラン恵子	※ボランティア 1人
20	平成30年3月10日 (土) 13:00~16:10	3	にほんごタウン	6	VII人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	<修了式> ①各参加者の識字レベルに合わせた文字学 習 ②以下の目標項目 ・修了式に参加する ・パーティで楽しく話したり、ゲームをしたり できる	ディラン恵子	※ボランティア 1人
★	平成29年3月10日 (土) 12:00-13:00 16:30-18:30	3	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スぺ ース	3	-	受講者へのヒアリング	-	●ヒアリング担当 (コーディネーター): 矢崎理恵 田中美穂子 ●ヒアリング通 訳: 柴田都志子
★	平成29年3月17日 (土) 12:00-18:00	3	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スぺ ース	3	-	受講者へのヒアリング	-	●ヒアリング担当 (コーディネーター): 田中美穂子



(1)特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

活動名:トライ日本の味

概要:日本料理を作りながら日本語を学ぶ。

目標:1.日本料理を作る一連の体験を通して、日本語でのやりとりや生活上必要とされる様々な行為ができるようになる。

2.買い物、調理、実食等の体験を共有することで、参加者と日本語でやりとりする意欲を向上させ、日本語を話す・学ぶ。

【春夏講座 第12回 平成29年8月5日/秋冬講座 第12回 平成30年1月13日】

■目標「日本料理について知ろう」「買い物しよう」

■受講者側からみた授業の流れ

(1)次週の「トライ日本の味」調理実習について説明を聞く。日本料理の基本的調味料について説明を聞き理解する。

(2)会計係を決めて、会費を集める。

(3)食材リストを見ながら、手巻き寿司の具材として入れたいものを話し合う。1人2品ずつ選び、カードに書き入れる。

値段を確認してから、買う物を決めて、買い物に行く。

(4)スーパーで目的の品を探し、値段を見て買う。会計をし、領収書をもらう。

(5)教室に戻り、作り方プリントに分量を聞き取って記入する。同プリントを見ながら、だし汁、すし酢、大根の漬け物を作る。

(6)次週の段取りを相談する。

↓

【春夏講座 第13回 平成29年8月12日/秋冬講座 第13回 平成30年1月20日】

■目標「日本料理を作ってみよう」「作った料理のレシピを書こう」

■受講者側からみた授業の流れ

(1)たまご焼を作る。

(2)すし飯を作る。先週作った「すし酢」を使用。

(3)味噌汁を作る。先週作った「だし汁」を使用。

(4)手巻き寿司に使う食材を切り、皿にのせる。

(5)テーブルセッティングをしてから、「いただきます」の挨拶をする。

(6)感想を述べ合いながら、様々な具材を試す。

(7)簡単に片付けの後、「私の好きな手巻き寿司レシピ」(春夏講座)、「今日のお気に入り料理」(秋冬講座)を書く。

■使用した教材(すべてオリジナル)

・調味料リスト(説明資料)

・食材リスト(写真や目安価格入りの食材一覧表)

・だし汁、すし飯、大根のつけもの 調味料分量の聞き取りプリント

・レシピを書くワークシート

※写真は秋冬講座



○取組事例②

活動名:おしゃべりタイム

概要:「日本人との日本語でのやりとりを楽しむ活動」

目標:1.人前で話題提供スピーチができる。

2.日本語で発信し、積極的にコミュニケーションをとることができる

【春夏講座 第16、17回 平成29年9月2日、9日/秋冬講座 第16、17回 平成30年2月10日、17日】

■目標「ミニスピーチをしてみよう」「日本人と日本語でやりとりしよう」

■受講者側からみた授業の流れ

第1週:準備

(1)「おしゃべりタイム」のスピーチの練習をする。司会を決め、進行の練習もする。

(2)日本人ボランティアへの質問を考える。

第2週:おしゃべりタイム当日

(3)受講者の司会の下、各受講者が簡単なミニ文化紹介のスピーチをする。

(4)受講者と日本人ボランティアのペアでおしゃべりを楽しむ。

(「自己紹介」「自国紹介」「日本人ボランティアへの質問」を基本の流れに、自由に話をすすめる。)

(5)終了後、教室に戻り、分からなかった表現を質問したり、感想を述べ合ったりする。

(6)日本人ボランティアからのメッセージを読む。

(7)振り返りプリントを用いて、ペアを組んだ相手はどんな人だったか、おしゃべりタイムはどうだったか等を書き込み振り返る。

■教材・資料

・スピーチ原稿用紙

・質問用紙

・振り返り用紙

・ボランティア向け説明+メッセージ記入用紙

※写真は秋冬講座



(2) 目標の達成状況・成果

期間中に実施した以下4点より、目標達成状況・成果を検証する。(A、B、Dは春夏、秋冬各講座の終了時に実施)  
 A) 受講者対象の個別ヒアリング(ビルマ語、フランス語、英語の通訳あり)での聞き取り  
 B) 受講者対象の振り返りアンケート  
 C) 受講者対象の日本語能力判定(各講座開始前・終了後に実施)  
 D) 受講者対象の文化庁書式アンケート  
 E) ボランティア(日本語教育専攻の大学生)対象の個別ヒアリング  
 F) コーディネーター、指導者、指導補助者、日本語教室小委員会委員の観察

1、受講者目標「日常生活において最低限必要とされる生活上の行為を日本語で行える(または、行えるという自信がもてる)ようになる」「日本社会の一員としての権利と義務を理解した上で、各人が日本社会の一員であるという意識を高め、日々の生活の豊かさを求める姿勢がもてるようになる」について  
 一十分に達成されたと考える。どの受講者もヒアリングやアンケートで必ず口にするのは、「文字が読めるようになった」「日本の文化や習慣について理解できた」「今までできなかった生活上の行為が日本語でできるようになった/これまで日本語でなんとか生活上の行為を行って来たが、日本語できちんとできるようになった」ということである。これらの言葉から本教室へ参加が、日本語学習への扉を開き、その意欲を高めていること、その結果、教室内外での日本語学習が進み、日本社会で生きていく自信につながっていることがわかる。また、日本語能力判定においても、講座開始前、終了後の比較で各受講者とも、それぞれのレベルで日本語能力を向上させていた。

2、ボランティア(日本人住民)目標「活動を通じて、外国人住民への理解を深め、コミュニケーション力を向上させ、教室での学びを日々の生活に生かして、外国人住民と共に暮らす日常を楽しめるようになる」について  
 今年度は、「日本語教育専攻の大学生」「日本語教育について学んだことのない大学生、社会人」「先輩外国人住民」が参加した。活動を通して、日本に暮らす外国人(特に活動の対象となる難民)について理解を深め、わかりやすいコミュニケーションの仕方を学ぶ姿が見られた。特に、「日本語教育専攻の大学生」については、本教室が日本語教育人材育成の実践的な場となることを意識して受け入れた。教授内容や意図を理解し進んで指導者を補佐する様子が見られ、個別ヒアリングでは「大学で学んだ理論と現場がつながっていることが実感でき、さらに勉強したいと思う」という発言が聞かれた。本教室が日本語教育の人材育成に一定の役割を果たしたということができよう。

(3) 今後の改善点について

3年にわたり実施してきた「体験を通して学ぶ導入期日本語講座」は、受講者のレベルや状況に応じた教授内容の柔軟性を保ちつつも、全体的なシラバスが確立されてきた。今年度は新たな試みとしてコーディネーターによる受講者の日本語能力判定(他者評価)、受講者が記入する「学習記録シート」(自己評価)を取り入れた。前者は受講者の日本語能力の変化を客観的に判断する材料となり、後者は受講者に毎回の授業の振り返りの機会を提供した。両者とも一定の成果を得たと思われるが、今後は、得られた評価をどのように指導者や学習者に還元していくのかを考えていくことが課題として挙げられる。

日本語教育の実施【活動の名称：生活力向上のためのワークショップ】									
目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの難民等の外国人住民に対して、日本で生活していく上で必要となる知識(今回は「健康」や「お金トラブル」、子どもの教育に関連した「進路の話」に焦点をあてた)の正しい理解を促す</li> <li>ワークショップに参加した外国人住民が生活上の知識を得ることで、コミュニティに属していたり、関わりのある他の外国人住民にも正しい情報を伝えることができるようにする</li> </ul>								
対象	東京近郊に在住する難民、ボランティア(主に日本人)								
取組の内容	難民等の外国人住民向けに、「健康」や「お金のトラブル」、中高生・大学生の子をもつ親と学生とを対象とした「進路の話」をテーマにワークショップを開催した。母語通訳(今回はビルマ語)を介して、母語での理解を図った								
実施期間	平成29年5月27日～平成30年2月3日			曜日・時間帯		原則として土曜日(12:00～13:30)			
開催回数	全 13.5時間 (1時間30分×2回、2時間×4回、2時間30分×1回)			開催場所		認定NPO法人難民を助ける会会議スペース			
参加者	総数 147人(のべ人数) (日本語学習者 112人、指導者10人、支援者 25人)			使用した教材・リソース		ワークショップ担当指導者作成のオリジナル教材や、団体が所持しているチラシやパンフレット			
出身・国内別内訳(人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
				3人					
	ミャンマー(27人)、エチオピア(2人)、コンゴ民主共和国(3人)								
カリキュラム案活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回から第4回については、「標準的なカリキュラム案で扱う生活上の行為の事例」を参考に、日頃、当会の相談事業で見聞きする事例と重ねあわせてテーマの選択をした。</li> <li>第5回から第7回はカリキュラム案の目標に掲げられている「日本語を使って自立した生活を送ることができるようにすること」「日本語を使って、相互理解を図り、社会の一員として生活を送ることができるようになること」を念頭に、親子(家族)にとって大きな進路選択について考え、学ぶ機会を提供した。</li> </ul>								
日本語教育の実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名	
1	平成29年5月27日(土) 10:30-12:00	1.5	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	17人 ミャンマー (子2人、大人1人) ベトナム (子2人、大人1人) エチオピア (子1人、大人1人) 日本(大人7人) その他(子2人)	<b>■タイトル:</b> お弁当を作ろう  (I-01 健康を保つ/健康に 気を付ける)	1 お弁当上手になる基本(講座編) ・濃いめの味付け ・しっかり加熱、しっかり冷ます ・いろいろな味、メリハリのある味 ・いろいろな色 2 三色そぼろ弁当を作ってみよう(実践編) ・ゆで野菜、いり卵、鳥そぼろ 3 きれいな盛り付け方(実践編)	田辺 恵美子 植木 千津 (当会の ボランティア講 師)	(ビルマ語通 訳) なし	
2	平成29年6月3日(土) 12:00-13:30	1.5	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	14人 ミャンマー (子4人、大人2人) エチオピア (子1人、大人1人) その他(子3人) 日本人(大人3名)	<b>■タイトル:</b> お金の学校  (III-06 お金を管理する)	<小学生向けワークショップ> 1 お金のひみつについて 2 お金を貯めることや、お金のルール 3 お金の危険を知ろう	牛堂 望美 黒澤 和世 他3名 (株式会社 東 京スター銀行)	(ビルマ語通 訳) なし	
3	平成29年8月5日(土) 12:00-14:30 (13:30-14:30は 個別相談の時間)	2.5	GOBLIN 目黒 店	11人 ミャンマー(10 人) エチオピア(1 人)	<b>■タイトル:</b> 女性の健康  (I-01 健康を保つ/健康に 気を付ける)	1 女性特有の病気について 2 子宮と卵巣の病気 3 乳房の病気 4 生理の異常	上村 いずみ (看護師/助産 師)	(ビルマ語通 訳) MA LIA MANG GING KHAI	



4	平成29年9月2日(土) 12:00-14:00 (13:30-14:00は 個別相談の時間)	2	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	15人 ミャンマー(12 人) エチオピア(1 人) その他(1人) 日本(1人)	■タイトル: お金のトラブルを防 ごう  (Ⅲ-06 お金を管理する)	1 クレジットカード ・クレジットカードとは ・クレジットカードQ&A ・個人信用情報 2 いろいろなお金のトラブル ・クーリングオフ制度 ・トラブルにあったら・・	青山 雅恵 (ワーカーズ・コ レクティブ生活 クラブFPの会)	(ビルマ語通 訳) LASHI ROI SAN
5	平成29年11月4日(土) 12:00-14:00 (13:30-14:00は 個別相談の時間)	2	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	36人 ミャンマー(23 人) コンゴ(3人) 日本(10人)	■タイトル: 親子で聞く進路のお 話 ～“働く”を意識した 進路選択①	1 働くとは 2 お金と働き方 3 “働く”を意識した進路選択 4 個別相談(13:30-14:00)	高屋 江梨子 (株式会社 進 路情報ネット ワーク)	(ビルマ語通 訳) LIA GING LAM MANG
6	平成29年12月2日(土) 12:00-14:00 (13:30-14:00は 個別相談の時間)	2	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	26人 ミャンマー(20 人) コンゴ(1人) 日本(4人) その他(1人)	■タイトル: 親子で聞く進路のお 話 ～“働く”を意識した 進路選択②	1 大学 2 専門学校 3 短期大学 4 入学試験 5 個別相談(13:30-14:00)	高屋 江梨子 (株式会社 進 路情報ネット ワーク)	(ビルマ語通 訳) LIA GING LAM MANG
7	平成30年2月3日(土) 12:00-14:00 (13:30-14:00は 個別相談の時間)	2	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	18人 ミャンマー(15 人) ベトナム(2人) エチオピア(1 人)	■タイトル: 親子で聞く進路のお 話 ～“働く”を意識した 進路選択③	1 進学に必要な費用 2 支払方法と時期 3 進学資金に困ったら 4 個別相談(13:30-14:00)	高屋 江梨子 (株式会社 進 路情報ネット ワーク)	(ビルマ語通 訳) LIA GING LAM MANG

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第5回 平成29年9月2日】

【テーマ】 お金のトラブルを防ごう

【担当】 講師: 青山 雅恵 (ワーカーズ・コレクティブ生活クラブFPの会) ビルマ語通訳: ラッシー ロイ サン

【参加者】 15人 (ミャンマー12人、エチオピア1人、その他1人、日本1人)

【目的】

お金のトラブルに関する外国人住民からの相談が増えているため、トラブルに遭わないために知っておくべきこと、気を付けるべきことを学ぶ。

【内容】

●お話

- 1 クレジットカード
  - ・クレジットカードとは
  - ・クレジットカードQ&A
  - ・個人信用情報
- 2 いろいろなお金のトラブル
  - ・クーリングオフ制度
  - ・トラブルにあったら・・

●質疑応答

●アンケート記入



## ○取組事例②

【第6回 平成29年11月4日】

※本ワークショップは全3回シリーズで、2回目(12月2日)、3回目(2月3日)と継続して実施した。

【テーマ】親子で聞く進路説明会 ～“働く”を意識した進路選択

【担当】講師：高屋 江梨子(株式会社 進路情報ネットワーク) ビルマ語通訳：リア テン ラム マン

【参加者】36人(ミャンマー23人、コンゴ3人、日本10人)

【目的】

高等学校への進学を果たす学生が増える中、将来の仕事を見据えた進学先選びをしている学生は限られ、多くが“なんとなく大学の方が良い”と大学進学を希望している。そこで、中学生、高校生のうちから進路選択についてしっかりと考える機会を提供したいと考える。また、学生だけではなく親にも正しい知識を身につけてもらった上で、子どものキャリア支援を実現してほしい。

【内容】

●お話し

- 1 働くとは
- 2 お金と働き方
- 3 “働く”を意識した進路選択

●質疑応答

●個別相談



## (2) 目標の達成状況・成果

本講座の目的・目標として掲げた下記2点について、各回のワークショップ終了時に行ったアンケートならびに講師や通訳へのヒアリングの結果、またコーディネーターの観察をもとに達成状況・成果を判断する。

1. 多くの難民等の外国人住民に対して、日本で生活していく上で必要となる知識の正しい理解を促す  
昨年度に引き続き、今年度も関心の高い「健康」と、新たに「お金にかかわる話」をテーマに取り上げた。ワークショップ参加者の多くがミャンマー出身であることに配慮し、ビルマ語通訳を配備した。日本語レベルに左右されることなく、正しく理解することを実現できたと考える。  
通訳者は、日本語レベルが高く、通訳にもある程度慣れている方に毎年お願いをしている。また、日本での定住歴が長くコミュニティのキーパーソンの役割を担う方に通訳として関わってもらうことで、当事者視点から日本で生活していく上で必要となる知識を講座の中で盛り込んでもらえるよう、講師と調整してきた。  
成果の検証方法として、毎回、ワークショップ終了時にアンケートを実施。役立ったかどうか(5段階評価)とその理由、質問事項等を記入してもらう。  
上記の目的・目標の達成状況については、以下アンケート結果(原文のまま)から読み取ることができると考える。

＜“女性の健康”ワークショップにて＞

「女性にとっては必要な知識なのでとても役に立った」、「女性の病気をこまかく説明してくれてとても役に立った」(ミャンマー人女性)

＜“お金のトラブルを防ごう”ワークショップにて＞

「クレジットカード使い方とだいたいの注意点をえられました」(ミャンマー人男性)

「けいやく通り支払しなければ、ブラックリストになること、消費者ホットライン188をえられてとてもかんしゃします」(ミャンマー人女性)

「とてもわかりやすい説明、レジメでした。講師の方のお話しの方も外国人にわかりやすかったと思います。また身近な例が多くあったので、具体的にわかりやすかったです」(日本人女性)

2. ワークショップに参加した外国人住民が生活上の知識を得ることで、コミュニティに属していたり、関わりのある他の外国人住民にも正しい情報を伝えることができるようになる

ワークショップに参加した外国人住民が正しい知識を得ることで、彼ら彼女らを通して、正しい知識が他の外国人住民にも広がっていると考えられる。特に、通訳者として関わってもらった方は講座資料の事前確認や講師との打ち合わせを通して、知識の定着が図れている。終了時に行ったアンケートからも上記の目的・目標の達成状況について見ることができる。こういった回答を今後も得られるように努めていく。

＜“女性の健康”ワークショップにて＞

「他人(知識のな人)に説明ができます」(ミャンマー人女性)

## (3) 今後の改善点について

今後の改善点は以下の通りである。

1. 取組内容について、外国人住民のニーズを常に意識しながら必要となるテーマを取り上げる  
必要があれば、以前文化庁事業にて実施させていただいたワークショップのテーマをさらに深掘りした上で実施することも検討する。また、生活上必要な知識は何であるか、通訳をはじめとした外国人住民にヒアリングを行うことで、ニーズが高いテーマを今後も取り上げていく。
2. 当会に蓄積されているワークショップ実績を他地域でも実施してもらえるよう、必要に応じて対応する  
当事者団体や難民支援団体等にも周知することで、必要に応じて外部出張も検討していきたい。外部で講座を開催することを通して、より多くの外国人住民に正しく必要な情報を伝えることができると考える。

**日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称：日本語教室ボランティアのためのブラッシュアップ講座】**

目的・目標	地域日本語教室で活動するボランティアが、「生活者としての外国人」や「日本語教育支援のあり方」について理解を深め、日本語教育支援のスキルを高めることにより、各人が所属する日本語教室の日々の活動を活性化させる意識とスキルをもてるようになることをねらいとしている。 今年度は、「『活動』を知る・学ぶ・体験する」をテーマに、参加者皆で、共に学び、共に考える「参加」型の講座とした。								
対象	地域日本語教室でボランティアとして活動中の方								
取組の内容	地域日本語教室で活動するボランティアを対象として、以下の通り講座を実施した。 ①「活動」の情報を提供する。実践者を招き、日本語教室で使えるさまざまな活動について、グループワークも取り入れ、実践的に学ぶ。 ②受講者自身が自らの教室での教え方を振り返り(講座内でいくつかの教室の活動発表を実施)、どうすれば外国人学習者が、教室で学習したことを生活の中で使えるようになるのかを共に考える。 ③ナビゲーター複数人が講座を見守り、必要に応じて各人の情報や考え、実践例などを共有する								
実施期間	平成29年11月26日～平成30年3月4日	曜日・時間帯	日曜日(13:30～16:10)						
開催回数	全20時間(1回2.5時間×8回)			開催場所	認定NPO法人難民を助ける会会議スペース				
参加者	総数23人(2回以上参加者数) ※毎回ナビゲーター(講座担当委員)複数人が参加			使用した教材・リソース	・講師作成のオリジナル教材 ・『留学生のためのケースで学ぶ日本語』ココ出版 ・『語彙マップで覚える漢字と語彙 初級1400』リサーチ出版 ・『会話に挑戦!中級前期からの日本語ロールプレイ』スリーエーネットワーク ・『ビジネスのための日本語中級』スリーエーネットワーク ・『おたすけタスク』くろしお出版 ・『改訂新版 日本語コミュニケーションゲーム80』ジャパンタイムズ 他				
出身・国内訳(人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	日本(23人)								
カリキュラム案活用	「ブラッシュアップ講座」では受講者が「カリキュラム案」について直接学ぶことはしていないが、「カリキュラム案」の目的、目標を共有しながら、ボランティアとしていかに日本語学習支援の活動をしていくのか、自身の活動を評価するのかを考えられる講座を目指している。								

**養成・研修の実施内容**

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師名	補助者名
1	平成29年11月26日(日) 13:30-16:10	2.5	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	19	「活動」へのウォーミングアップ	1. シアターゲーム(ウォーミングアップ) 2. 活動紹介と体験(「詩」、「食」、ケース教材など)	中山由佳	奥原淳子
2	平成29年12月3日(日) 13:30-16:10	2.5	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	20	文型や表現、そして活動へ①授受表現	1. 授受表現について 2. 活動紹介と体験(記念日の贈り物についてインタビュー、贈り物の相談など)	武田聡子	長崎清美 (奥原淳子)
3	平成29年12月10日(日) 13:30-16:10	2.5	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	21	文型や表現、そして活動へ②受け身	1. 受け身について 2. 活動紹介と体験(最悪の一日の作文、イベントなどのお知らせ作成など)	武一美	奥原淳子 (長崎清美)
4	平成29年12月24日(日) 13:30-16:10	2.5	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	20	「漢字」、活動を使って	1. 漢字指導上の注意点 2. 活動紹介と体験(漢字の成り立ちストーリー作成、語彙マップなど)	安高紀子 菊池富美子	菊池富美子 安高紀子 (奥原淳子) (長崎清美)
5	平成30年1月21日(日) 13:30-16:10	2.5	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	21	文型や表現、そして活動へ③敬語	1. 活動紹介と体験(ロールプレイ)	武田聡子	長崎清美 (奥原淳子)
6	平成30年2月4日(日) 13:30-16:10	2.5	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	15	文型や表現、そして活動へ④状況から活動へ	1. 敬語についてまとめ 2. 「わたしのにほんご」プロジェクト紹介と体験	武田聡子	長崎清美 (奥原淳子)
7	平成30年2月18日(日) 13:30-16:10	2.5	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	15	「歌」って活動	1. 歌授業の効果 2. 活動紹介と体験(歌を使った活動)	下郡麻子	長崎清美 (奥原淳子)
8	平成30年3月4日(日) 13:30-16:10	2.5	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	18	受講者どうしによる「活動」例の情報交換	1. 本講座のふりかえり 2. 「活動」の紹介 3. 「活動」を作って共有	奥原淳子 長崎清美	奥原淳子 長崎清美

**(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)**

○取組事例①

<p>【第7回 平成30年2月18日】</p> <p>■内容</p> <p>【講師】下郡麻子 【補助者】奥原淳子・長崎清美</p> <p>&lt;進め方&gt; * 受講者は4つのグループ(各グループ3～4名)に分かれて着席。</p> <p>* PPT使用</p> <p>&lt;ねらい&gt; イベントとして扱われることの多い「歌」も学習のひとつの活動として使えることを知ってもらう。</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <p>1. 歌を使ったレッスンは難しいのか?(歌が得意ではない、など)</p> <p>2. 歌を使うとどんな効果があるのか?(楽しいだけでなく、①メンタル面での効果、②学習面での効果「拍・発音」「文法の確認」「表現」「詩を味わう」などがあることの紹介、および具体的な歌を使った使用例の紹介)</p> <p>3. 候補曲リストを見ながら、グループごとに教室で使えそうな歌を選んで授業内容を考え、他のグループと共有。</p> <p>&lt;所感&gt;</p> <p>「歌」は「文法」とちがって、受講生の身近な素材であったため、経験の浅い方も取り組みやすいテーマであった。後半のグループワークでは、各グループ非常に熱心に授業の進め方を考え、発表を行なった。講座中、何回か講師による歌やCDの歌が流れたことにより、その場の雰囲気やわらかくなっていたことも、「歌」の効果のひとつと言える。「歌」を使った活動の楽しさ、また学習効果は理解できたが、実際の教室ではどの程度活用できるのか、マンツーマンの教室などでどう取り入れることができるか、受講生と講師による意見交換の時間をもっと確保することができればよかった。</p>
--



○取組事例②

【第8回 平成30年3月4日】

■内容

【講師】奥原淳子・長崎清美 【補助者】矢崎理恵

<進め方> \* 受講者は6つのグループ(各グループ3名)に分かれて着席。

\* PPT使用

<ねらい> 講座の最終回として、本講座で扱った「活動」についてふりかえり、「活動」の意味をもう一度考える。また、受講者が自分たちの教室で無理なくできる活動を考え、共有してもらう。

<内容>

1. 講座のふりかえり。各講師による「活動」の意味をまとめ、「活動」は文法を教えるとき、どの段階で取り入れることができるのかも確認する。
2. 「～たい」を学習したときに使える活動の紹介と体験。(ランキング、インタビュー、作文)
3. 身近な素材(広告)を使った活動の紹介と体験。(文字の確認、値段の言い方、値段を比べる、買い物の計画を立てる、日本事情の導入としてなど)また、チラシを使った活動の利点と注意点についても触れた。
4. 「活動」を作る。グループごとに、初級文型を学習する際に取り入れられそうな活動を考え、共有した。

<所感>

「活動」は受講者によっては馴染みのない方もいたが、最終回にもう一度各回を振り返ることで、なぜ活動をするのか、「活動」とは何なのかを理解することができたのではないと思う。また、各講師が紹介したさまざまな活動を使って、「～たい」という初級文型の活動を紹介し体験してもらったことは、本講座での学びのいいまとめとなった。



(2) 目標の達成状況・成果

アンケートにより、各回および全体を通しての満足度や意見を聴き、目標の達成状況と成果を確認した。結果は以下の通りである。

回	大変有意義だった	有意義だった	あまり有意義でなかった	全く有意義でなかった
1	71	29	0	0
2	50	50	0	0
3	50	50	0	0
4	48	48	4	0
5	40	55	5	0
6	60	40	0	0
7	80	20	0	0
8	80	20	0	0
全体	73	27	0	0

日 (単位：%) るようになるのではないかと、そんな思いから、今回は「活動」に着目し講座を展開した。

アンケートで回答者全員が、全体を通して、「大変有意義だった」「有意義だった」と答えたことから、講座に対する満足度が高かったことがわかる。また、テーマを「活動」としたことについては、「『これまで活動は取り入れていなかった/活動を学ぶ機会がなかった』が、『とても参考になった/一番必要な内容/定着のために必要だとわかった』というコメントが多く見られた。「文型を教えて、テキストの練習をやって、それでおしまい」といった学習支援に終始している現場も少なくないことから、本講座が「理解」だけでなく「使える」ことを意識した支援を考える契機になることを期待したい。

以下に、受講者の講座に対する意見・感想として、アンケートのコメントの一部を記す。

第1回(「活動へのウォーミングアップ」)

「グループのメンバーが知り合い、名前を覚え、よい雰囲気を作るためのゲームがたいへん有意義でした。あまり実施する機会はなさそうですが…。」

第2回(「文型や表現、そして活動へ①授受表現」)

「具体的な指導方法の一端を見る(感じる)ことができました。私はまだボランティア活動を始めていませんが、イメージすることができたように思います。」

第3回(「文型や表現、そして活動へ②受け身」)

「文法として認識せず、日ごろ使っている受身表現を学習者の目線から感じることで有意義でした。」

第4回(「漢字」、活動を使って)

「漢字学習は難しく大変だと思っておりましたが、参加して楽しくできるためのコツを学びました。」

第5回(「文型や表現、そして活動へ③敬語」)

「ロールプレイの注意点がわかりました。また、学習者としてロールプレイに参加できて、気持ちがわかりました。」

第6回(「文型や表現、そして活動へ④状況から活動へ」)

「状況の重要さの再確認。より学生、当事者のニーズの重要さを再確認。」

第7回(「歌」って活動)

「楽しい講座でした。歌の力を借りると、授業(教室)の内容が充実しますね。何らかの形で取り入れられたらと思います。ただ、マンツーマンでやっているので、普段はむずかしいかな。」

第8回(受講者どうしによる「活動」例の情報交換)

「活動例の紹介を実際に体験でき、ぜひ実践的に使ってみようと思った。活動を考えるコーナーでは、さまざまなアイデアを聞くことができたのでためになった。」



(3) 今後の改善点について

課題として三つ挙げる。  
 まずは今回のテーマに関して、「活動」が有意義であることは理解されたものの、実際の支援にどう取り入れていったらいいか、わかりにくい側面があったという点である。より理解しやすくするためには、提示の仕方を文型ベースでなく場面ベースにする、あるいは、講座初期の段階で、学習の全体の流れを示した上で「活動」がどう取り込めるかを明示する等、工夫が必要である。それから、地域の日本語教室では、支援を個別に行っているケースも多いようで、複数の学習者を想定した「活動」の場合、すぐには活用できないという声も聞かれた。これらの点については、テーマの選定や募集の際に留意するようしたい。  
 最後に、スケジュールの見直しも今後の改善点である。開始時期が遅くなったことで、開講日に余裕がなくなってしまった。受講者に無理なく参加してもらえるよう早めに計画を立てることが肝要である。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称：地域日本語教室ボランティアのための講座活動基礎講座】

目的・目標	地域日本語教室で活動を始めたばかりのボランティアが、「生活者としての外国人」や「日本語学習支援」について理解を深め、日本語学習支援のスキルを高めることにより、各人が所属する日本語教室の日々の活動を活性化する意識とスキルをもてるようになることをねらいとしている。 地域の教室によっては、日々の活動に追われ、日本語学習支援について何も学ぶ機会のないまま、活動を始めてしまう場合も多いことから、広く開かれた講座の開催を決定した。								
対象	地域日本語教室でボランティアとして活動中、活動予定の方								
取組の内容	全5日間の講座は、午前の部では「多文化共生」「生活者としての外国人」をキーワードに、「地域日本語教室に期待される役割とは?」「日本に暮らす外国人にとっての在留資格とは?」「異文化を理解する」とは?」「上手な聴き手になるには?」「外国人からの相談を受けたら?」のテーマで参加型の講座を展開した。午後の部では「地域日本語教育」「実践」をキーワードに、地域日本語教室の現場からの発信、広く日本語教育の特定分野からの発信、「やさしい日本語」「日本語学習支援のきそ」と題した、参加型の講座を実施した。								
実施期間	平成30年1月14日～平成30年3月11日			曜日・時間帯		日曜日(10:00～12:00 / 13:00～15:00)			
開催回数	全 20時間 (1回4時間 × 5回)			開催場所		SHIP 品川産業支援交流施設 認定NPO法人難民を助ける会会議スペース			
参加者	総数 38人 (日本語学習者 0人、指導者・支援者 38人など)			使用した教材・リソース		講師作成のオリジナル教材			
出身・国別内訳(人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	日本(38人)								
カリキュラム案活用	・第1回午前、第4回、第5回午後の講座の中で直接、「生活者としての外国人」のための日本語教育について言及があった。講座実施中は、参考資料として展示した。 ・講座を通じて、「生活者としての外国人」をより深く理解していくための学びと話し合いを重ねた。								

養成・研修の実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師名	補助者名
1	平成30年1月14日(日) A 10:00～12:00	2	SHIP 品川産業支援交流施設	21	A-1 地域日本語教室に期待される役割とは?	【趣旨】日本語教育の全体像を俯瞰しながら、地域日本語教室に期待される役割を考える(講義中心) (1)「多文化共生」の理念 (2)国内日本語教育のカリキュラム (3)言語学習の目的・目標	西原鈴子	矢崎理恵
	平成30年1月14日(日) B 13:00～15:00	2	SHIP 品川産業支援交流施設	24	B-1「地域での日本語教育の実践」に学ぶ① B-2「技能実習生への日本語教育」を知る	【趣旨】地域での日本語教育に関わる方の実践を聞き、活動展開の広がりや面白さを知る(質疑応答を交えた講義中心・学習者の声を交えながら紹介) (1)「さほうと21」とは (2)学習者について (3)活動の展開について 【趣旨】「特定分野の学習への日本語教育」を知る-技能実習生-(質疑応答を交えた講義中心) (1)データで見る技能実習生 (2)技能実習生と日本語 (3)まとめとQ&A	矢崎理恵 LIA CING LAM MANG 黒羽千佳子	矢崎理恵
2	平成30年1月28日(日) A 10:00～12:00	2	SHIP 品川産業支援交流施設	23	A-2 「日本に暮らす外国人にとっての在留資格とは?」	【趣旨】日本に暮らす「外国人」が「在留資格」によりどのような可能性と拘束が生じるのかを知る (1)在留資格について 活動に制限のあるもの、ないもの (2)申請の種類について 具体的な事例に基づいて (3)その他(在留資格の取り消し、資格外活動)	金子琢哉	矢崎理恵
	平成30年1月28日(日) B 13:00～15:00	2	SHIP 品川産業支援交流施設	27	B-1① 「地域での日本語教育の実践」に学ぶ② B-2② 「ビジネスマンへの日本語教育」を知る	【趣旨】地域での日本語教育に関わる方の実践を聞き、活動展開の広がりや面白さを知る(質疑応答を交えた講義中心) (1)地球っ子クラブ 2000 設立経緯と団体概要 (2)活動例の紹介 (3)地域の教室活動からの気づき (4)他機関との連携 (5)地域日本語教室の役割 【趣旨】「特定分野の学習への日本語教育」を知る-ビジネスマン-(質疑応答を交えた講義中心) (1)ビジネス日本語教育とは (2)ビジネス日本語教育の形態 (3)研修開始から終了までのプロセス (4)企業、日本語研修に対する関わり方 (5)人事の要領例 (6)ビジネス日本語研修の実例 (7)ビジネス日本語教育の留意点	高柳なな枝 山田和美	矢崎理恵



3	平成30年2月11日(日) A 10:00~12:00	2	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	24	A-3 「異文化を理解する」とは？	【趣旨】「異文化を理解すること」を実感をもって学ぶ(ワークショップ) (1)アイスブレイキング(部屋の四隅) (2)アクティビティ1(バーンガ) (3)ふりかえり	中村絵乃	田中美穂子
	平成30年2月11日(日) A 10:00~12:00	2	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	25	B-3 「やさしい日本語」	【趣旨】外国人とのやりとりで必須の「やさしい日本語」について、その必要性を考えると共に具体的なスキルを身につける(参加型講座) (1)基礎データ(在住外国人の使用言語他) (2)話し言葉のコツ編 (3)文章のコツ編	岩田一成	なし
4	平成30年2月25日(日) A 10:00~12:00	2	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	21	A-4 上手な聴き手になるには？	【趣旨】「異文化を理解すること」を実感をもって学ぶ(ワークショップ) (1)アイスブレイキング(部屋の四隅) (2)アクティビティ1(バーンガ) (3)ふりかえり	麻生洋	矢崎理恵
	平成30年2月25日(日) A 10:00~12:00	2	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	25	B-4 「日本語学習支援のきそのきそ・その1」	【趣旨】日本語学習支援をするために最低限必要となる「日本語」「日本語学習支援」の基礎を学ぶ(参加型講座) (1)「日本語ボランティア教室調査結果」から考える教室の目的 (2)日本語教育の仕組み (3)現実のコミュニケーションと日本語教育の規範 (4)生活密着型の支援	岩田一成	なし
5	平成30年3月11日(日) A 10:00~12:00	2	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	23	A-5 外国人からの相談を受けたら？	【趣旨】「外国人からの相談にどう対応するか、しないか」を考える(参加型講座) (1)ワーク「身近な外国人からこんな相談・・・あなたならどうする？」 (2)「外国人相談」とは (3)外国人相談の最前線としての地域日本語教室 (4)ふりかえり・意見交換	新居みどり	矢崎理恵
	平成30年3月11日(日) B 13:00~15:00	2	認定NPO法人 難民を助ける 会会議スペース	26	B-4 「日本語学習支援のきそのきそ・その2」	【趣旨】【趣旨】日本語学習支援をするために最低限必要となる「日本語」「日本語学習支援」の基礎を学ぶ(参加型講座) (1)はじめに「日本語教育の中の「ことばの種類」 (2)文法の話 文法を勉強する順番 (3)文法を前面に出さない工夫:おしゃべり活動のすすめ (4)おしゃべり(対話)型日本語支援活動の例	岩田一成	なし

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第5回-1 2018年3月11日(日) 10:00-12:00】  
 ■場所:認定NPO法人難民を助ける会会議スペース  
 ■テーマ:「外国人から相談を受けたら？」  
 ■講師:新居みどり(NPO法人国際活動市民中心(CINGA)) 講義補助:矢崎理恵(社会福祉法人さぼと21)  
 ■会場形態:4~5人ずつでテーブルを囲む形

以下のような流れで講座を進行した。

1. 講師 自己紹介、今日の流れ説明

2. ワーク「身近な外国人からこんな相談・・・あなたならどうする？」

「日本の料理を作りたい。作り方を教えてほしい。」「アパートの保証人になってくれる人がいなくて困っている。」など13項目の相談事例(講師が実際に経験のある事例)について、以下のような流れで展開

- ① 自分でワークシートを記入してみましょう
- ② グループで話し合ってみましょう
- ③ グループの意見を全体で共有しましょう

3. 「外国人相談」とは

パワーポイント資料にそって、「外国人住民の不便・不満、困りごと」「3つの壁(法律・言葉・心)」「相談の分野(法律・教育・行政・医療の各分野がからみあった形での相談)」「公的な取り組みとしての外国人相談」「東京における外国人相談体制」「東京外国人支援ネット-都内リレー専門家相談会-」「外国人相談の最前線としての 地域日本語教室」「大切な心がまえ(できること・できないことを決める、外国人相談のプロにつなぐ)」について、フロアーからの質問に答えながら、具体的事例を交えて話が進められた

4. 振り返り

活発な意見交換の場となった



○取組事例②

- 【第5回-2 2018年3月11日(日) 13:00-15:00】  
 ■場所: 認定NPO法人難民を助ける会会議スペース  
 ■テーマ: 「日本語学習支援の基礎の基礎」  
 ■講師: 岩田一成(聖心女子大学文学部日本語日文学科)  
 ■会場形態: 4~5人ずつでテーブルを囲む形

第3回では「やさしい日本語」、第4回では「日本語学習支援のきそのきそ・その1」を岩田氏に依頼、その回を受けた形で講座である。以下のような流れで、受講者参加型の講座が展開された。

- (1)はじめに(日本語教育の中の「ことばの種類」)  
 「元気です」の否定形は「元気がありません」だけですか? というような問いかけへの答えを考える形で、また、国語教育との比較から「日本語教育における「ことばの種類」を学ぶ。  
 (2)文法の話 文法を勉強する順番  
 「第一段階 丁寧体(L1-13: みんなの日本語)」「第二段階 普通体(L14-20: みんなの日本語)」「第三段階 L21-50: みんなの日本語」という段階を理解し、その具体的な内容を学ぶ。あわせて、「語彙を学習する事の重要性」「文法を扱いきれないようにすべきでは」ということを考える  
 (3)文法を前面に出さない工夫: おしゃべり活動のすすめ  
 (4)おしゃべり(対話)型日本語支援活動の例  
 「対等な人間関係を形成していく」場として日本語教室をとらえ、その中で有効な「対話の活動」を映像等を見ながら受講者同士の話し合いを交えながら、共に考えた。



(2) 目標の達成状況・成果

●アンケートにより、各回の満足度や意見を聴き、目標の達成状況と成果を確認した。結果は以下の通りである。

■「講座は(日本語学習支援の活動をするために/多文化共生社会の現場で活動するために)役に立ちましたか」の質問への回答

	A1 日本語教育を担う	A2 在留資格	A3 異文化理解	A4 聴く	A5 外国人相談
大変役に立った (大変有意義だった)	12	12	13	9	21
役に立った (有意義だった)	8	9	6	10	2
どちらでもない	1	0	0	0	0
あまり役に立たなかった (あまり有意義ではなかった)	0	0	0	0	0
全く役に立たなかった (全く有意義ではなかった)	0	0	0	0	0
	21	21	19	19	23

	B1 地域での日本語教育の実践①	B1 地域での日本語教育の実践②	B2 特定分野への日本語教育①	B2 特定分野への日本語教育②	B3 やさしい日本語	B4 日本語学習支援のきそのきそ・1	B5 日本語学習支援のきそのきそ・2
大変役に立った	13	15	14	10	17	10	20
役に立った	9	8	8	10	5	11	4
どちらでもない	1	1	1	3	0	1	1
あまり役に立たなかった	0	0	0	0	0	0	0
全く役に立たなかった	0	0	0	0	0	0	0
	23	24	23	23	22	22	25

今回初めての試みとして実施した「活動基礎講座」であるが、受講者からの評価も高く、また、講師としておみえくださった方々からも非常に高い評価をいただいた。当初の目的は十分に達成されたと考える。

講座での成果として以下の点をあげたい。

- ①一般に「ボランティア向けの講座」では扱われることの少ない「在留資格」「異文化理解」「聴く」「外国人相談」という分野を取り上げた点。そうした分野の必要性を受講者が実感できた
- ②各分野の第一人者に講義をお願いできたことで、受講者の学びが深いものとなった
- ③「日本語」に関わる学びの部分で、ボランティアは何を学んでおいたら良いのかの具体的な提示ができた
- ④地域に縛られることのない団体として、各地域で活動するボランティアが共に学び、意見を交換することのできる場の提供ができた
- ⑤地域日本語教室を単なる「日本語習得の場」としてとらえず、日本の多文化共生を支える活動体としてとらえていく視点を提示できた

以下に、最終回で実施した全体振り返りのアンケートの一部を紹介する。

<活動経験のない方から>

・日本語教育の世界は深いので、このような講座があると繰り返し受講しながら、ボランティアとして確認し改善できるし、スキルをみがいていけると思います。このような機会を続けていただきたいです。

・幅広いテーマ/トピックを学ぶことができ、大変参考になった。

・語学だけでなく、学習者の生活者としての立場に立って理解をする一助になると感じました。語学ボランティアとしてだけでなく、生活者ボランティアとして学習者の方に寄り添っていく活動をしていきたいです。

・私にとっては午前中のテーマの方がとても関心がありました。

<活動経験のある方から>

・異文化の理解についてゲーム的に、いかに大変な立場に立たされている人たちと勉強しているかをやったのが、すごくおもしろく感動的、怖い体験だった。その他にも色々あります・・・。

・「在留資格」「外国人相談窓口」など、普段気にはなりつつ、調べることもせずにいた身にとって、Best Topicでありました。

・どのテーマも大変興味深く充実した内容でした。「日本語を教える」ということのみでなく「人を支援する」と考えることが必要と分かったので、西原先生のお話、高柳さんのお話が印象に残りました。

(3) 今後の改善点について

これまで実施してきた講座を参考に、新しいタイプの講座を企画、実施した。アンケートの結果、第5回の講座終了後に行った小会議(講座受講者5名を含む)での振り返りから、次年度以降、以下の点について再度検討を行いたい。

①対象者:「これからボランティアを始めようと思っている方々」より「活動を始めて日が浅いボランティア」を対象とした方が良い(当会が地域の縛りなく活動できる団体であることから、様々な団体で活動する方々の学びを深める場、ボランティア同士のネットワークづくりの場という位置づけが有効ではないか。)

②構成:「日本語」に関心をもって講座受講をする方々もいらっしゃるから、各回の順番を考え直しても良いのではないか。

③内容:テーマによっては、「地域日本語教育」の枠組みに落とし込み、講座の学びと日頃の活動がより有効につながりあうような工夫が必要ではないか。学びをさらに深めていく方策の検討が必要ではないか。

④受講者の活動や悩み事を語り合えるような時間があってもよいのではないか。

今後も定期的に開催をしていくことにより、講座内容について改善をしつつ、継続していきたい。

**日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称: 理解を深める講座「難民への日本語教育を俯瞰する」】**

目的・目標	・地域日本語教室で活動するボランティアが、「生活者としての外国人」や「日本語支援のあり方」について理解を深め、支援のスキルを高めることにより、各人が所属する日本語教室の日々の活動の活性化に寄与できるようになること ・現在日本国内で行われている日本語教育を俯瞰し、現状を改めて確認することから、今後の難民に対する日本語教育のあり方について考えていくこと								
対象	地域日本語教室や難民への日本語教育に関心のある方								
取組の内容	フロアからの質問を随時受けながら、以下のような流れで講座を進行した。 第1部: 団体(個人)からの実践の報告8つの報告、報告に関するファシリテーター、他団体(個人)からの補い 第2部: 登壇者によるパネルディスカッション テーマ「難民に対する日本語教育のこれから」ファシリテーター 松尾 慎さん								
実施期間	平成29年12月17日			曜日・時間帯			日曜日(13:00~16:30)		
開催回数	全3.5時間(1回3.5時間×1回)			開催場所			認定NPO法人難民を助ける会会議スペース		
参加者	総数 45人 (日本語学習者 人、指導者・支援者 45人など)			使用した教材・リソース			各団体作成のオリジナル教材		
出身・国別内訳(人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	日本(45人)								
カリキュラム案活用	直接カリキュラム案を利用することはしなかったが、「生活者としての外国人」である「難民」に対する日本語教育のあり方を、皆で考えるにあたり、カリキュラム案に記された「目的(言語・文化の相互尊重を前提としながら、「生活者としての外国人」がに保護で意思疎通を図り生活できるようになること)」と「目標」を共通の認識として講座を実施した。								

養成・研修の実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師名	補助者名	
1	平成29年12月17日(日) 13:00-16:30	3.5	認定NPO法人難民を助ける会会議スペース	45	「難民への日本語教育を俯瞰する」	0. 難民への日本語教育概要の説明 1. 各団体(個人)あからの実践の報告 2. 登壇者によるパネルディスカッション	松尾 慎 小瀬 雅子 矢崎 理恵 寺畑 文絵 伴野 崇生 向井 園子 (新井 協子) 寄田 恭直 (マリブセンブ・宗田勝也) 富田 京子 (石川美絵子)	小瀬 雅子 富田 京子 寄田 恭直 伴野 崇生 向井 園子 松尾 慎 寺畑 文絵 (矢崎 理恵)	

## (1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

### ○取組事例①

【第1回 2017年12月17日】※本講座は年間を通じて1回のみ実施  
フロアからの質問を随時受けながら、以下のような流れで講座を進行した。

第1部:各団体(個人)からの実践の報告、報告に関するファシリテーター、他団体(個人)からの補い  
1 難民への日本語教育概要の説明(さぼうと21より)

- 2 難民事業本部(RHQ)……難民認定者に対する公的支援としての日本語教育
- 3 さぼうと21……定住難民の生活力向上を目指した日本語教育
- 4 難民支援協会(JAR)……就労支援の一環としての日本語教育
- 5 伴野崇生さん……個人として関わる就労・生活のための日本語教育
- 6 カトリック東京国際センター(CTIC)……難民の居場所としての日本語教室
- 7 PEACE……難民当事者が主催する日本語教室
- 8 日本国際社会事業団(ISSJ)……社会統合促進のためのムスリム系難民に対する日本語教育

第2部:登壇者によるパネルディスカッション]

テーマ 「難民に対する日本語教育のこれから」 ファシリテーター 松尾 慎さん



## (2) 目標の達成状況・成果

●講座当日実施のアンケートにより、満足度や意見を聴き、目標の達成状況と成果を確認した。また、講座直後に第2回運営委員会を行い、講座内容についての検討を行った。

アンケートの結果は以下の通りである。コメントの一部も記す。

### ■「実践報告について」

質問:内容は「難民への日本語教育」に関する理解を深めるのに役立ちましたか。

大変役立った-21名 役立った-13名 どちらとも言えない、あまり役立たなかった、全く役立たなかったについては0名

- ・文献や論文でも得られる知識などもあるが、実際に行われている実践を聞くことができ、理解を深めることができたと思う。
- ・難民に関する団体の話を一度に聞けるチャンスがこれまでなかったので。
- ・多様な取り組みを知れたこと。
- ・難民の日本語教育に関わった方の生の声を聞けたため。

### ■「パネルディスカッションについて」

質問:内容は「難民への日本語教育」に関する理解を深めるのに役立ちましたか。

大変役立った-13名 役立った-19名 どちらとも言えない-1名 あまり役立たなかった-1名 全く役立たなかった-0名

- ・お話がもろださんだったのでもう少し時間があると良かったです。
- ・難民の方々が日本語を学ぶ必要性を感じていない場合、モチベーションがないときなど、どのようにアプローチしていくのか。
- ・少し話題が偏っていた。

アンケートでは多くのコメントをいただき、受講者の関心の高さがうかがわれた。とくに実践報告についての評価は高く、「難民への日本語教育を俯瞰する」という目標は十分に達成できたのではないと思う。とくに東京以外の地域で行われる実践について関心をもった方が多かった。また、実践者や当事者の生の声を聞けたことを評価するコメントも多く見られた。

パネルディスカッションについては、時間不足の中、子どもの教育等にも話が及び、やや消化不良のまま、時間になってしまったが、受講者からの質問も相次ぎ、また、発表団体同士の日本語教育に関する連携の始まりとして大きな意義があったと考える。

## (3) 今後の改善点について

今後も難民への日本語教育に関する団体同士の連携、日本社会への訴求力を高める努力を続けていきたい。

今回は第1回ということもあり、議論を十分に深めることができなかったが、「インドシナ難民」「条約難民」「第三国定住難民」という面から、あるいは「成人への日本語教育」「子どもへの日本語教育」という面から、あるいは「働く」「学ぶ」「老いる」「育てる」というような視点から、日本語教育のあり方を探っていくことが可能ではないかと考えている。

いずれにせよ、「継続」することにより「新たな展開」も可能であり、次年度以降も何かしらの形で「難民への日本語教育」について形に残る活動を考えたい。



日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称:「にほんごも生活も一歩前進」】			
目的・目標	地域の日本語教室で勉強中の外国人住民、および日本語学習支援者が利用しやすい教材を提供すること 当団体や他団体が作成した様々な教材を有効活用できるような手引書を作成すること		
対象	外国人住民(初級レベル・中級レベル)・外国人住民の日本語教育支援にあたる方		
教材の内容	<p>A「体験型初級日本語講座実例集」 「体験を通して学ぶ導入期日本語教室」での授業をもとに、体験型初級日本語講座の授業の流れや利用教材をテーマごとにまとめたもの。「授業の流れ」や「語彙集」、「ワークシート」などを備えている。 「支援者が見るページ」「学習者と一緒に見るページ」「学習者のページ」で構成されている。 昨年度までに作成した教材に以下を追加した。</p> <p>①「自己紹介ができる(自分の国の紹介)」※指導者向けの「流れ」1頁追加 ②「欠席の電話がかかけられる」※指導者向けの「流れ」1頁追加</p> <p>③「行き方や場所をたずねる」2頁 ④「トライ日本の味」18頁</p> <p>B「体験型初級日本語講座・学習者用記録シート」(春夏教室用)6頁 試行錯誤を続けている「学習者用記録シート」については、学習者の負担、シート記入に費やす時間の削減を考え、各体験をテーマ別にまとめ、テーマごとに記録シートを作成するようしてみた。「春夏教室」「秋冬教室」で使用してみたが、受講者からも好評である。</p> <p>C「体験型初級日本語講座シラバス案」5頁 「体験型初級日本語講座のシラバスを、全体を見通せる形でまとめた。</p> <p>D「こんな時どうする?どう思う?」(「生活者としての外国人」が読んで、考え、話せる初中級～中級読解教材) 学習者との対話活動に使えるような事例を集めた「生活者としての外国人」のための初中級読解教材。初級を終了し、読む活動を日本語学習に取り入れていきたいと考えた際に興味をもって読み進められる内容を考えて。また、「生活者としての外国人」が日々の生活の中で疑問に思ったり、自国の文化や習慣との違いを感じやすいテーマを選んでいることから、対話活動、討論活動(当会では以降、「ワークショップ」で利用することを検討している)にも有効である。 今回は試作版であるが、今後もタイトルを増やしていく。</p> <p>①「家族の長い別離」 ②「初めての中学校」 ③「日本語を勉強しておけばよかった」 ④「校長先生からの質問」 ⑤「学年を下げる?」</p>		
実施期間	平成29年5月13日～平成30年3月10日	成果物のリンク先	当会ホームページの「教材バンク」にて、平成30年4月中旬に公開予定。 ※教材バンクのURL: <a href="http://support21.or.jp/ouractivities/learning-program/japanese-learning-materials/">http://support21.or.jp/ouractivities/learning-program/japanese-learning-materials/</a>
作成教材の想定授業時間 コマ数と頁数	A 実例集・B学習記録シート・C実施例 全60時間の日本語講座を想定している C「こんな時どうする?」1回 2-4時間×5回	教材の頁数	A 実例集 22頁 B 学習者用記録シート 6頁 C シラバス案 5頁 D「こんな時どうする?どう思う?」5頁
カリキュラム案活用	「カリキュラム案」の目的、目標の達成を目指し、教材作成を進めている。 「カリキュラム案」「ガイドブック」「教材例集」をテーマ選びや内容検討の際に参考になっている。		
教材の活用方法	<p>全ての教材が「生活」をベースに考えられている。</p> <p>A「実例集」は、グループでの「体験型」の日本語学習を想定して作られている。当会作成の『はじめの500語』(無料公開)をあわせて利用するとよい。</p> <p>B「学習記録シート」、C「実施例」は指導者、学習支援者が日本語学習の進め方を検討する際に参考となる。いわゆる「ポートフォリオ」の必要性を感じながら、なかなか学習者にも指導者にも利用しやすいシートが考えられなかった。「現場で利用可能な」記録シートの形として提案するものである。「実施例」は「体験型日本語講座」の全体をわかりやすくまとめたものであり、授業の全体計画を考える際に参考としていただきたい。</p> <p>D「こんな時どうする?」は「読みの活動」の教材として、また、「対話型活動」の「ネタ」として利用可能である。「リーディングチュウ太」等の利用により、「自分で調べて読む」ことに慣れつつ、ボランティアと共に読み進めながら、「内容」についての疑問や感想、意見などを述べあう活動への展開も可能である。</p>		
今後の活用の予定	全ての教材について、ホームページに掲載する予定である。 どの教材も随時追加作成、修正を行っていくたい。		



1 「家族の長い別離」

マリーの夫ビーターは、7年ほど前に複雑な事情が重なり、国を離れ、日本に来ることを決めた。マリーも娘のアナと共に、日本に来る覚悟を決めていた。ところが、ちょうどそのころ、マリーの父の父親ががん入院し、医師からは「余命10ヶ月」という宣告をされた。一人娘のマリーは苦しい選択を迫られた。帰郷するたびに前の晩の決心がゆらぐ。そんな毎日を送っていた。だが、一人娘のマリーは、もともと病弱な母に父を任せ、父親を置いて国を離れることはどうしてもできなかった。夫婦は別居を余儀なくされた。結局、父が亡くなった後、残された母の世話を必要となり、マリーが娘のアナを伴って東日本を来たしたのは、それから3年後の春だった。夫が国を出た時に小学校5年生だった娘のアナは、すでに小学校を卒業し、まもなく中学校2年生になろうとしていた。

(357 字)

○ あなた自身が(マリー)の立場だったら、父親が入院した後、どうするとおもうですか。もし夫(ビーター)の立場だったらどうするおもうですか。また子ども(アナ)の立場だったら、どう感じるおもうですか。

○ 「3年の家族の空白」について、どんな風に感じますか。



#### 4. 事業に対する評価について

##### (1) 事業の目的・目標

本事業の目的は、日本に定住する覚悟を決めた外国人住民(とくに難民)が、言葉の学びを通して生活基盤を強固なものとし、個々の「成長」を目ざして日々過ごせるようになること、より多くの日本人住民・先輩外国人住民が、彼らの良き「伴走者」として成長すること、結果として、関わる全ての者たちが多文化共生社会日本の一員として共に手を携え前進していくことである。

当団体は、難民を主な支援対象とし、昭和54年から活動を続けている。「定住」を目指す外国人住民が抱える問題や悩み、希望、期待、そして成長を、30年以上の歳月をかけて間近で見えてきた。「難民支援」という活動の性質上、地域に深く根差した活動展開はできないが、団体がこれまで得た知見、先輩外国人住民の経験、文化庁事業の成果を反映させ、「日本語教育」「人材育成」の具体的なモデルの提示、「現場で使える教材」の提供を進め、地域日本語教育に貢献したいと願っている。

##### (2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

「日本語教育」「人材育成」の取り組みについては、参加者からのアンケート結果、運営委員での振り返りをもとに検証する。「教材作成」については、複数名の外国人住民、日本人ボランティア、および運営委員からのコメントをもとに検証する。

当法人が平成23年度以来、文化庁委託事業として継続してきたそれぞれの取り組みは、内容も充実してきており、事業の目的・目標は十分に達成されていると判断する。平成29年度も、平成28年度に引き続き、これまでの取り組みの成果を、より多くの外国人住民、地域日本語教室ボランティアに向けて提供することに注力した。

■日本語教育については、ここ数年かけて「実例集」をまとめてきたが、今年度事業でさらに内容を補強し、さらに「学習記録シート」「ガイド」を加え、一つのモデルを提示するに至った。活動の進め方や日本語学習支援の方法に悩む地域の日本語教室、ボランティアに対して活動のヒントを提供できるものであり、その意義も大きい。

生活力向上のための参加型講座(ワークショップ)は、今年度も新たなテーマで実施した。ホームページや他所での活動報告等を通じて関心をもってくださる団体も増えている。大きな成果である。

■人材育成については「理解を深める講座」「ブラッシュアップ講座」「活動基礎講座」というそれぞれ特色のあるボランティア向けの講座を行うことができた。とくに「活動基礎講座」は受講者からの評価も高く、さらに大きな成果につながっている。「地域に縛られない」「地域を越えた」「地域のために柔軟に対応できる」団体として貢献できたと自負する。

■教材作成については、内容の見直しを進めつつ、着々とコンテンツの充実を図っている。方向性の異なる複数の教材の作成を進めている。どの教材も「生活者としての外国人」および地域日本語教室ボランティアにとって使いやすい教材であることを第一義に内容を検討している。

今年度の事業は、長年、文化庁事業を受託してきた団体として、また、一地域に限定されずに活動可能な社会福祉法人としての特性を活かし、日本語教育、人材育成、教材作成の内容を充実させ、「まとめ(=モデルの提示)」ができたことが大きな成果である。

##### (3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

当会が支援する難民、中国帰国者等の在留期間はより長期化おり、「標準的なカリキュラム案」の掲げる目的や目標は常に取り組みの指針となっている。

日本語学習に通う方には、すでに「マイホームを購入する人」「子どもの教育に奔走する人」「何歳まで働き続けられるかを考える人」などが出てきており、「生活者」としての課題がさらに広く深くなっていることを実感する。そのような外国人住民のニーズや希望に柔軟に対応しながら、他の地域でも参考にさせていただける日本語教育、人材育成、教材の具体を示していきたいと考えている。

##### (4) 地域の関係者との連携による効果、成果等

平成29年度は様々な団体との連携が進んだ。

「日本語教育・ワークショップ」の実施では、新たに「(株)進路情報ネットワーク」、「(株)東京スター銀行」等と連携が図られた。「ワーカーズコレクティブ生活クラブFPFの会」とは、今年度で3年目となり、継続的な関係構築ができています。

また、「人材育成」の各種講座を通じて、日本語教育の専門家のみならず、地域の外国人の生活を支えていくために必要な「専門家」、他の外国人支援団体と協働することができた。そのつながりを大切にしていきたい。

##### (5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

参加者への周知・広報は、当法人のホームページからの発信を中心に行い、関連するメーリングリストへの投稿や関連団体を通じての周知等を中心に行った。また、過去の講座受講者にも電子メールで呼びかけを行った。事業成果については、当法人のニュースレターで発信予定であり(平成30年4月頃)、また事業報告書にも記載しホームページ上で公開する(平成30年6月頃)ほか、ブログでも報告をアップすることで一般的に公開している。<http://support21.or.jp/staffblog/>

##### (6) 改善点、今後の課題について

今年度は日頃の活動を通じて構築してきた各分野の専門家やネットワークに大いに助けられ、有意義な取り組みを展開することができた。日頃の顔の見える関係づくりをさらに強固なものとし、ネットワークを広げていきたい。

また、地域日本語教室が「日本語教室の場」としてだけでなく、「外国人住民」と、日本社会とを「つなげる場」「つながる場」として機能していくことを期待して、新たな取り組みを検討していきたい。

事業計画の段階からより多くの日本人住民、外国人住民と協議を重ね、より計画的に各取り組みの充実化を図りたい。

##### (7) その他参考資料

- 1 案内のチラシ(日本語教室・ワークショップ・ブラッシュアップ講座・理解を深める講座・活動基礎講座)
- 2 アンケート(日本語教室最終回分(ビルマ語・日本語)・ワークショップ・ブラッシュアップ講座最終回分・理解を深める講座・活動基礎講座最終回分)
- 3 成果物(理解を深める講座 難民への日本語教育全体概要ppt資料、理解を深める講座 難民への日本語教育を行う団体一覧資料)